

京大生態事第49号
平成29年11月22日

関係各位

京大大学生態学研究センター長
中野 伸一（公印省略）

非常勤研究員の公募について（依頼）

京大大学生態学研究センターは、生態学に関する共同研究を推進する全国共同利用施設として機能してきましたが、平成22年度からは生態学・生物多様性科学における共同利用・共同研究拠点として新たに発足しました。当センターでは野外研究と実験研究および理論研究を統合して「生物多様性科学」研究を切り開き、この課題を将来発展させようとしています。また、当センターは理学研究科における大学院教育を担っており、大部門制で運営しています。つきましては、下記の要領で平成30年度の非常勤研究員を募集いたしますので、貴機関の関係者に周知を賜り、適任者の応募について御高配下さいますようお願い申し上げます。

記

- 1 採用人員 非常勤研究員 若干名
- 2 職務内容

当センターの次の研究分野のいずれかに属し、センターの研究・教育活動に従事し、センターの発展に協力していただきます。

研究分野（1）生物間相互作用が生み出す生物多様性に関する研究[担当教員：高林純示（教授）・東樹宏和（准教授）]

本研究分野では、陸上生態系において、植物-昆虫相互作用やその他の生物間相互作用と生物多様性の関係を解明することを目的としている。例えば、野外および操作実験系において、植物-植食者-捕食者相互作用ネットワークに関する研究、植物の誘導防衛反応に関する研究、または植物間コミュニケーションに関する研究に興味を持ち意欲的に取り組んで頂ける方の応募を歓迎する。昆虫や植物、真菌を対象に寄生や相利共生に関する研究を意欲的に進める方も対象に含む。

研究分野（2）水域における生物多様性と生態系機能および保全に関する研究 [担当教員：中野伸一（教授）・程木義邦（特定准教授）・宇野裕美（特定准教授）]

水域生態系（湖沼、河川）における生物群集の多様性、生物間相互作用と物質循環および保全に関する研究を進めている。研究は琵琶湖をはじめ、日本、世界各地の河川と湖沼で行っている。以下の研究内容のいずれか、ないしは複数にまたがって、独創的な切り口から研究を推進できる方の応募を歓迎する。1. 微生物群集の多様性と機能に関する研究。2. 生態系の物質循環とその制御機構に関する研究。3. 水域生物群集の保全に関する研究。4. 水生昆虫・魚・両生類など水生生物の生物間相互作用に関する研究。

研究分野 (3) 熱帯林における生物多様性と生態系機能 [担当教員：石田 厚 (教授) ・ 酒井章子 (准教授)]

生物多様性と関連させ、熱帯・亜熱帯林の生態系機能やその特性、熱帯・亜熱帯地域での人と森林の関係についての研究を行っている。植物の光合成・水・栄養塩の利用特性、物質循環、分解作用、植物と菌類や昆虫・動物間との相互作用、あるいは社会-生態システムに関する研究に意欲のある方の応募を希望する。

研究分野 (4) 分子解析手法による生物多様性および生態系機能に関する研究 [担当教員：工藤 洋 (教授) ・ 木庭啓介 (教授)]

フィールド研究に分子的な解析手法を持ち込むことによって、生物多様性の分子的基盤および生態系機能を明らかにすることを目的としている。以下の研究テーマについて研究を推進できる方の応募を歓迎する。植物に関する分子生態学的研究で、網羅的発現データを用いたフェノロジー、局所適応、系統地理学的研究など。安定同位体の自然存在比を用いた研究で、微生物生態、食物網や動物行動、流域環境に関する研究や、安定同位体比測定手法の新規開発に関連する研究も歓迎する。

研究分野 (5) 理論生態学による生物多様性および生態系に関する研究 [担当教員：山内 淳 (教授) ・ 谷内茂雄 (准教授)]

数理モデルを主な方法として、次の1-5のテーマのいずれか(複数でもよい)において、主体的・独創的に研究を推進できる方を望む。1. 生物多様性の維持・創出(進化理論を含む)機構の解明、2. 生物多様性と生態系機能の関係の解明、3. 進化生態学的な視点からのゲノム進化の理論的研究、4. 人間活動・地球環境変動による生態系変動・多様性喪失機構の解明、5. 持続可能性科学・地球環境学の視点からの保全理論の構築。また、生態研の各部門(陸域相互作用、水域、熱帯、分子解析、保全)と積極的に交流していく意欲のある方を歓迎する。

研究分野 (6) 生物多様性の保全に関する研究 [担当教員：川北 篤 (准教授)]

地球上には地域ごとに特色ある生態系が存在し、そこには独自の生物多様性が見られる。本分野では、生物の自然史や種間相互作用、およびそれらの進化史を解明することを通して、それぞれの地域の生態系や生物多様性がどのように維持・創出されてきたのかを明らかにするとともに、人間活動が生態系や生物多様性に及ぼす影響を理解することを目指している。対象とする生物は問わず、基礎的な生態学の視点から、生物多様性の保全に資する研究に意欲を持って取り組む方の応募を望む。

3 資格

- 1) 博士の学位を取得した者、または任用時まで学位取得が確実な者
- 2) 任用時において、常勤の職、大学院学生および研修員等の身分を有しない者

※ 若手研究者の応募を期待します。

※ 京都大学では時間雇用職員として通算5年を超えて雇用できませんので、京都大学での職歴のある方は事前に下記9の問合せ先にご相談ください。

4 待遇・期間等

- 1) 非常勤研究員
- 2) 任期は 1年。審査により最長 2年まで継続可能。

5 採用予定 2018年4月1日

6 提出書類

- 1) 履歴書 1部
 - 2) 研究業績目録 1部（原著論文、総説、学会発表等。主要論文 5編以内に印を付けること）
 - 3) 主要論文（上記）の別刷等各 1部
 - 4) これまでの研究内容についての概要（2,000字程度）
 - 5) 希望する研究分野と担当教員、及びその分野での応募者の研究計画（2,000字程度）
 - 6) 継続応募の場合、センターでの研究成果の概要（1,000字程度）
- ※ 提出書類は返却いたしません。

7 公募締切 2018年1月31日（水）必着

8 書類送付先

「6 提出書類」の書類をPDFとして作成し、電子メールで以下にお送りください。

application@ecology.kyoto-u.ac.jp

書類を受領後に、受け取りの連絡をいたします。数日経過してもこの連絡が来ない場合は、以下の「9 問い合わせ先」までご連絡下さい。

電子メールでの書類送付ができない場合は、以下の宛先までご郵送ください。

〒 520 - 2113 大津市平野2丁目509 - 3

京都大学生態学研究センター長 中野 伸一

封筒の表に「非常勤研究員応募書類」と朱書し、簡易書留によって郵送のこと

9 問い合わせ先

研究・職務内容に関しては各担当教員に、提出書類等についてはセンター総務掛（Tel 077-549-8200、Fax 077-549-8201）に問い合わせてください。

当センターHP <http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/index.html> も参考にしてください。

10 生態学研究センターの教員構成（2017年12月1日現在、担当可能教員のみ ABC 順）

程木義邦（特定准教授）・石田 厚（教授）・川北 篤（准教授）・木庭啓介（教授）・工藤 洋（教授）・中野伸一（教授）・酒井章子（准教授）・高林純示（教授）・東樹宏和（准教授）・宇野裕美（特定准教授）・谷内茂雄（准教授）・山内 淳（教授）